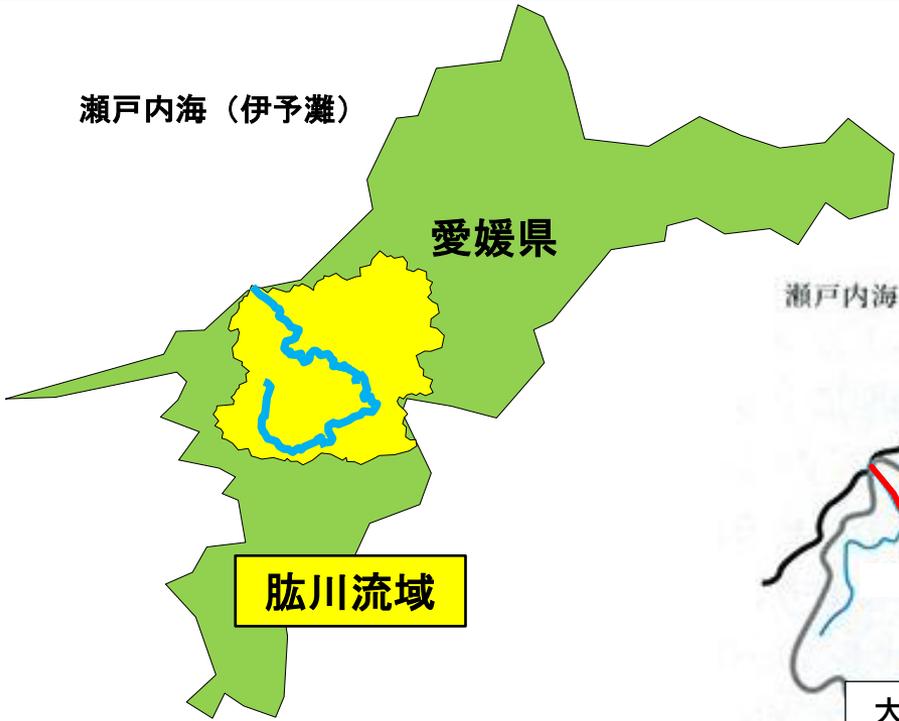


# 肱川かわまちづくりについて





## 肱川流域の概要

流域面積：1,210km<sup>2</sup>

幹線流路延長：103km

年降水量：1,800mm

土地利用：約85%が山地

古くから水害が頻発しており、平成30年7月豪雨で甚大な浸水被害を受け、「肱川河川激甚災害対策特別緊急事業」による堤防整備を実施。



- 肱川沿いには当時の工法・木造で天守閣が復元された「大洲城」や、明治時代に地元出身の貿易商が10年以上の歳月をかけて作り上げた「臥龍山荘」等の歴史的建造物が残されている
- 日本三大鶺鴒いの一つに数えられる「肱川の鶺鴒い」や藩政時代から伝わる「いもたき」など独自の文化が育まれている
- かつて肱川における舟運が主流であった頃は、40余りの河港が開け200艘以上の川船が置かれ特産品等を運ぶ重要な貨物輸送路となっていた
- 大洲は、江戸時代初期まで港を意味する「津」という文字を用い「大津」と表記されており、「大きな河港（津）」が大洲の地名の由来といわれている



臥龍山荘



大洲城



かつて存在した河港 (大洲市誌)



鶺鴒い

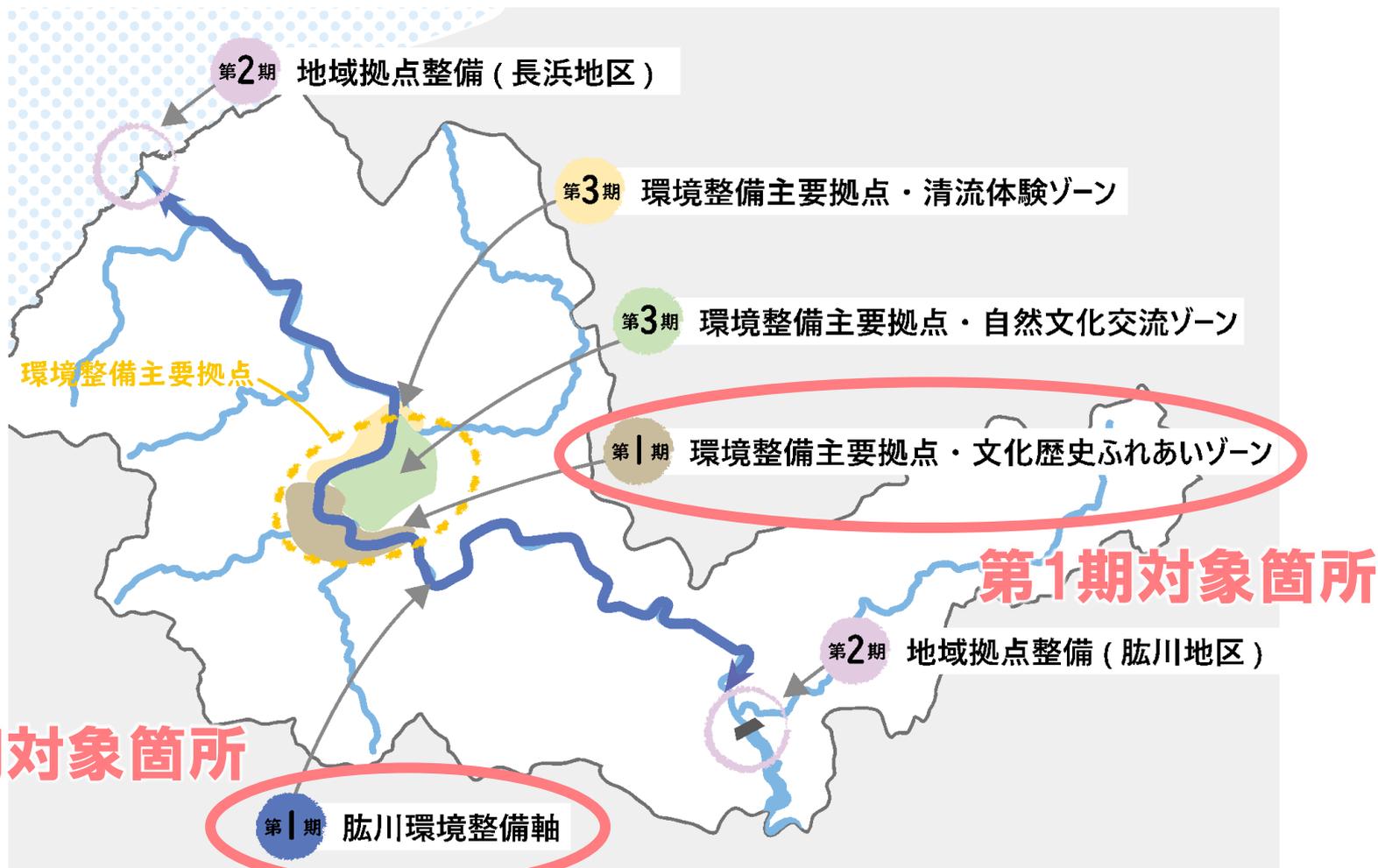


いもたき

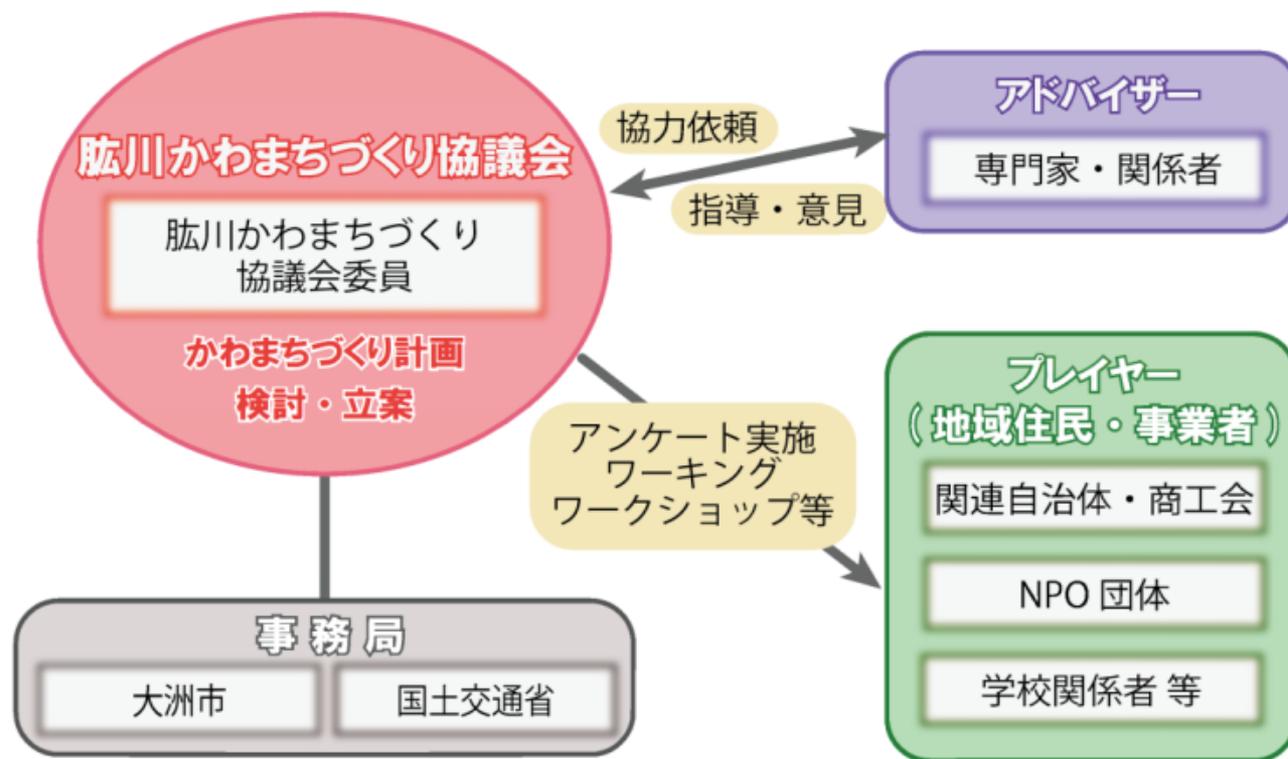
## 水郷文化とともに育ちつづけるかわまちづくり

全体構想（段階的な実施を想定した中長期的な整備構想）

⇒ 上流から下流まで肱川全体を活用



協議会を中心とした関係者間で全体構想を作成し、理念や課題を共有



- 平成30年7月豪雨災害により、人々が肱川から離れていくことを危惧。再び肱川と寄り添い、子ども達に水郷文化をつないでいくために・・・
- 景観、歴史、文化等の資源並びに地域の総意としての知恵を活かした良好なまち及び水辺が融合した計画を立案するために協議会を設置。



- 地図や航空写真、模型を使って意見交換
- 学生にも参加を呼びかけ、まちあるきを実施
- かわみなとの愛称、特徴付けるカラーを示すサインの検討





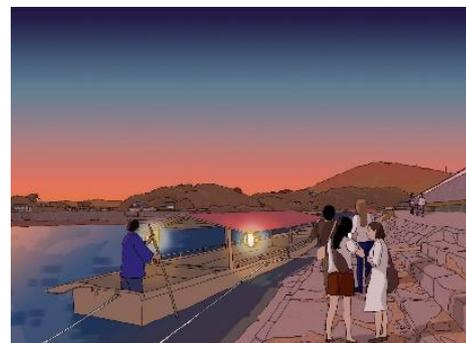
復興かわまちづくりとして、かつて「かわ」と「まち」をつなぎ大洲の発展を支えた「かわみなと」を復活させ、新たな賑わい、地域の活性化を図る。



## 親水護岸



## カヌー、鵜飼船の乗降場

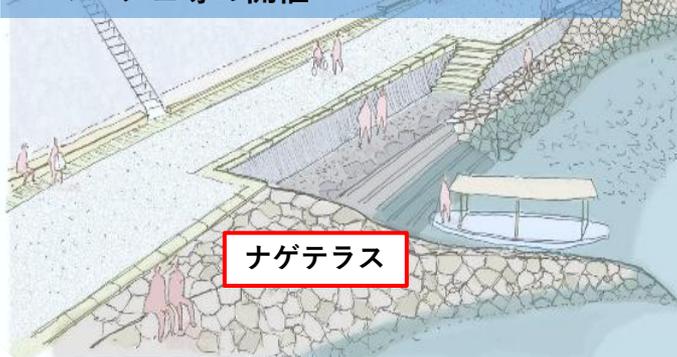


## 「肱川をナゲと共に楽しむ」

- ・伝統的なナゲと共に肱川の水際まで散策可能とするナゲテラスの創出

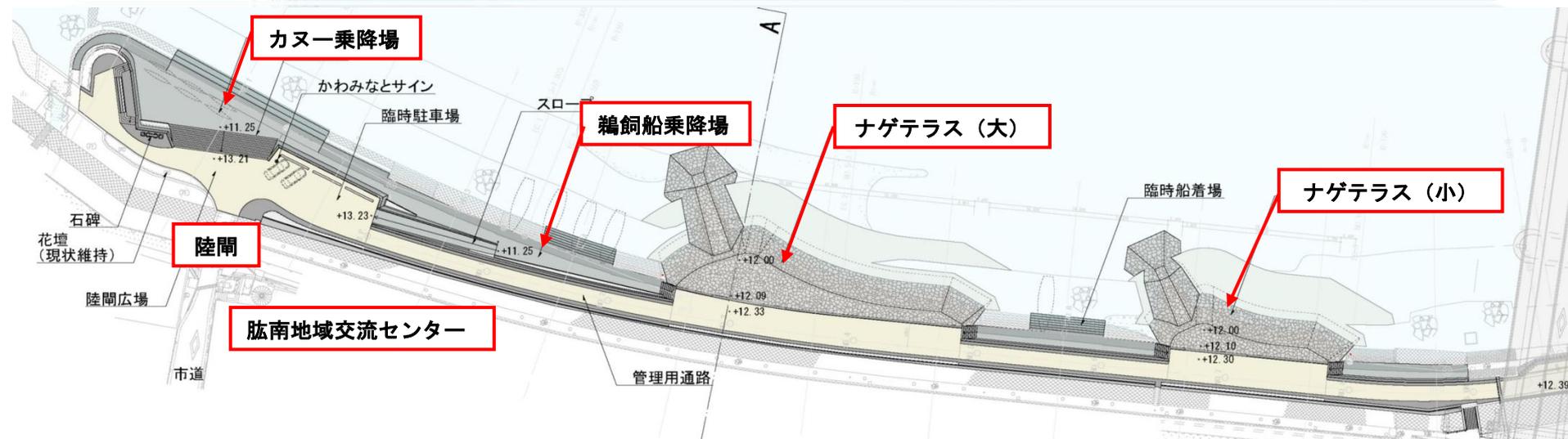
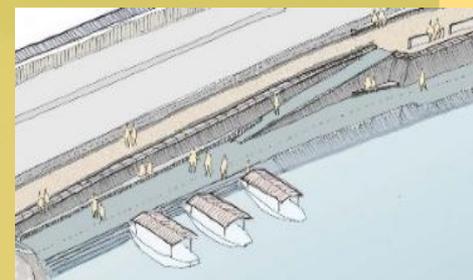
## 「マルシェで肱川を彩る」

- ・花壇を取り除き、広々とした通路でマルシェ等の開催



## 「優しき溢れる快適な空間」

- ・年齢問わず利用できるスロープ及び鵜飼船乗降場の設置
- ・カヌーの乗り降りが快適な広々とした階段の創出



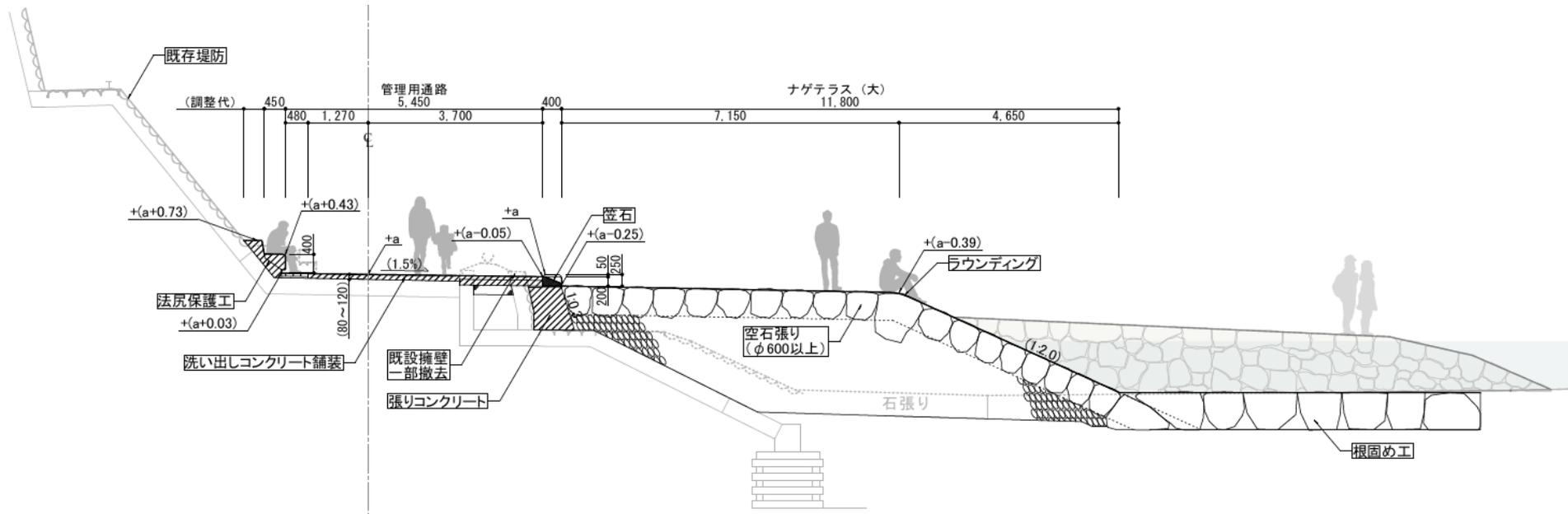
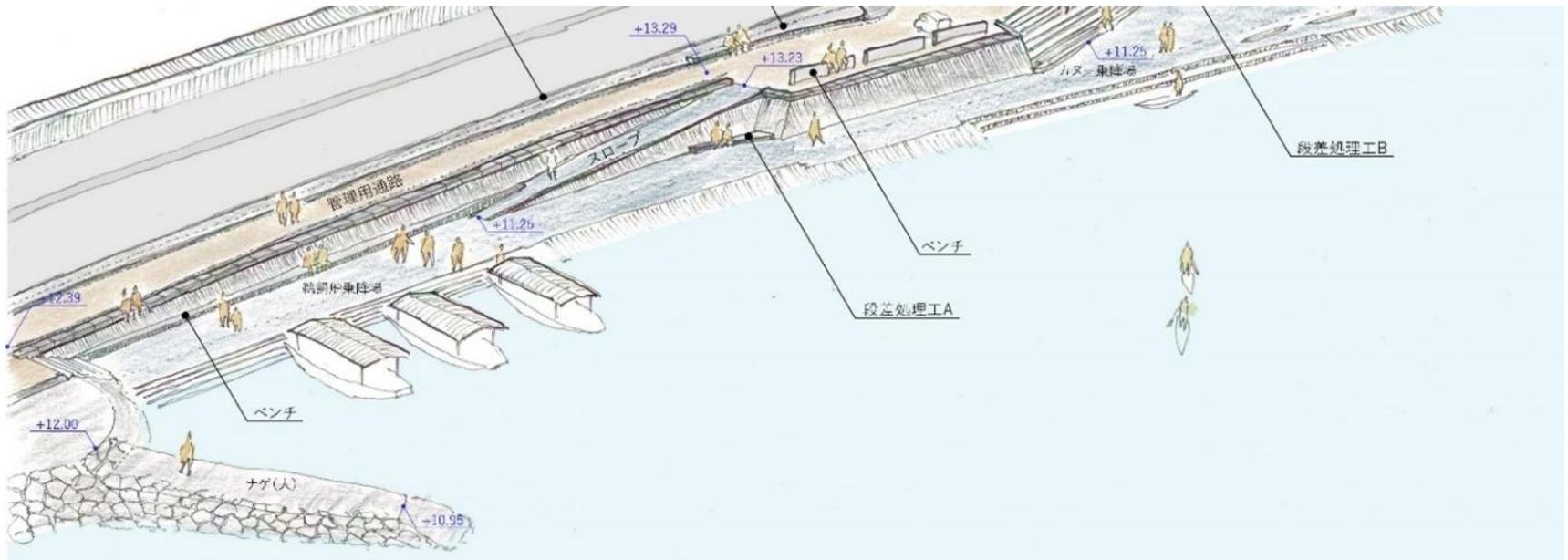


肱川に現存するナゲ



ナゲテラス

- 「ナゲ」とは肱川に江戸時代から存在する水制工であり、洪水時の水流を川の中心に導くことで河岸の保護や下流側を船着き場として利用する目的で作られた。
- かわまちづくりによる整備内容を検討する際、親水施設としてテラスが欲しいという意見があった。肱川の歴史的な景観の継承を目的としてナゲをモチーフにした「ナゲテラス」を整備することにした。



整備前



カヌーの乗降がしやすい幅広の階段整備



整備後



キッチンカーの乗り入れが可能な通路整備





渡し舟



キッチンカー



しろしたかわみなとの水辺



カヌー・SUP

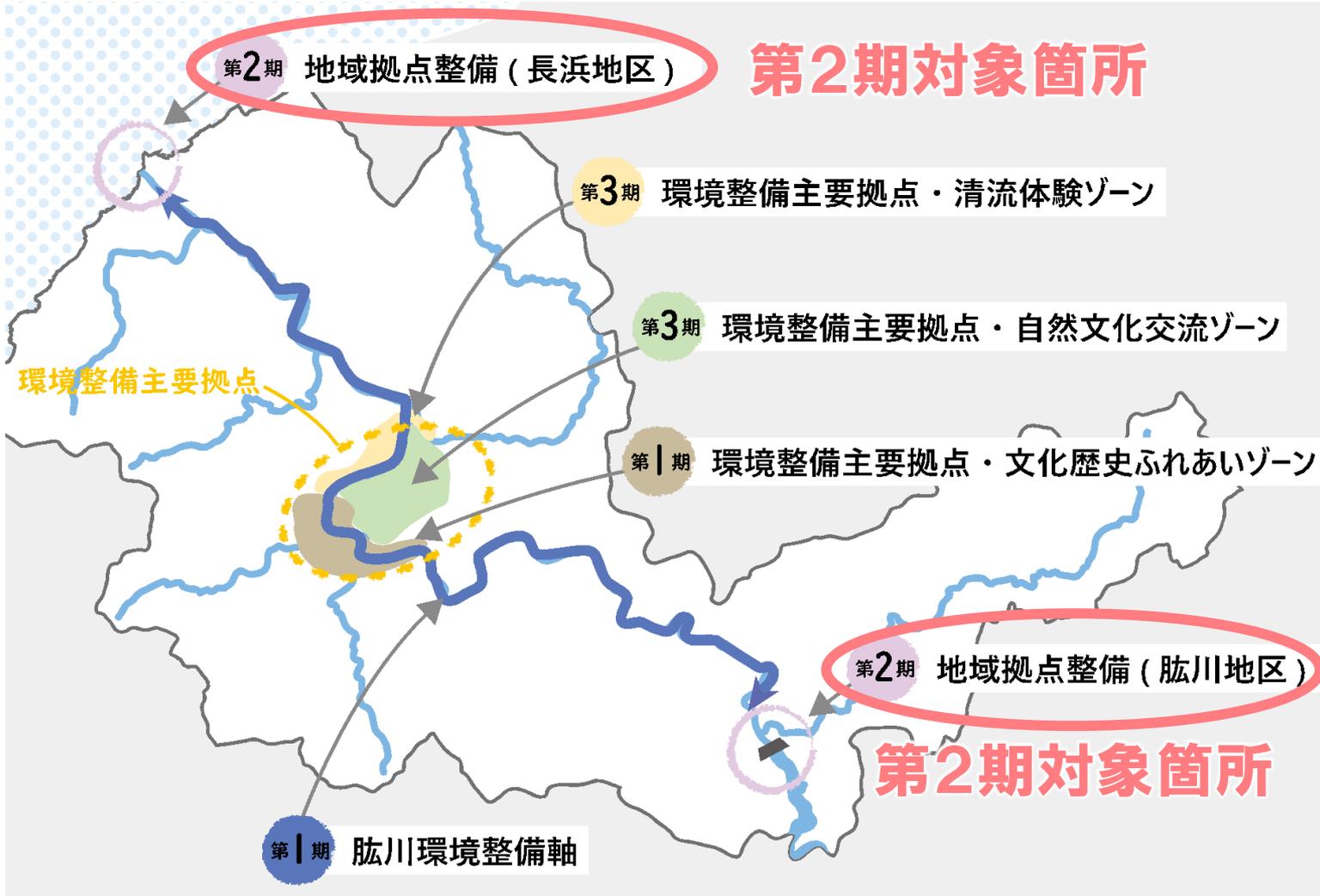


マルシェ



みどりのかわみなとの水辺





- 長浜地区（下流側）：長浜内港埋立事業
- 肱川地区（上流側）：山鳥坂ダム水源地域ビジョン  
：肱川生態系ネットワーク

- ・県内外から人が集う、高校生が運営する長高水族館地域の誇りとなっている



- ・河辺には、祭り等でかつて人々が集った町民の広場があったが、利用できなくなっている



- ・大洲市による長浜港内港埋立事業が進行中



長浜港内港埋立事業基本計画より

長浜港内  
港埋立事業区域

うみ

まち

かわ

- ・「かわ」と「うみ」をつなぐ「まち」(商店街)
- ・「長浜ガラスアートの商店街プロジェクト」を実施、店舗のガラス戸を水槽に見立てて魚のイラストなどを展示。地元の子供たちも参加する等、水族館を中心としたまちづくりの機運が高まっている。



100 m

## (アドバイザー)

愛媛大学 羽鳥剛史 教授  
白柳洋俊 准教授

## (調査設計関係者)

株式会社四電技術コンサルタント  
株式会社上條・福島都市設計事務所

## (工事関係者)

石岡建設株式会社